まちづくり研究所 2021 年度の活動より

曽我部昌史[*1] 吉岡寛之[*2] 丸山美紀[*6] 長谷川明[*6] 内田青蔵[*1] 山家京子[*1] 中井邦夫[*1]
六角美瑠[*1] 須崎文代[*2] 上野正也[*2] 鈴木成也[*3] 重村力[*4] 石田敏明[*5]

Reports from the Activities of Town Planning Institute 2021

Masashi SOGABE[*1] Hiroyuki YOSHIOKA[*2] Miki MARUYAMA[*6] Akira HASEGAWA[*6] Seizo UCHIDA[*1] Kyoko YAMAGA[*1] Kunio NAKAI[*1]
Miru ROKKAKU[*1] Fumiyo SUZAKI[*2] Masaya UENO[*2] Naruya SUZUKI[*3] Tsutomu SHIGEMURA[*4] Toshiaki ISHIDA[*5]

１．KIITO｜デザイン・クリエイティブセンター神戸改修計画
／曽我部昌史・吉岡寛之・丸山美紀・長谷川明

デザイン・クリエイティブセンター神戸（以下 KIITO）は、2012 年 8 月に開館した「デザイン都市・神戸」の拠点施設である。元神戸市立生糸検査所（1927 年竣工）を改修してつくられた「デザインを人々の生活に採り入れ、より豊かに生きることを提案し、神戸だけでなく世界中をつなぐ、デザインの拠点」[1]である。さまざまな活動に対応するため、ホールやギャラリーなどのスペースがあり、上層階はひろく創造的活動団体のオフィスとして貸し出されている（クリエイティブラボスペース）。

2021 年 10 月、新たな活動の場が加わった。3 階に新設された二つの拠点「KIITO:300 キャンプ」「KIITO:300 ファーム」および 1 階を改修して生まれた「クリエイティブラウンジ」である。2022 年度以降三宮図書館が同建物 2 階に移転することも視野に、より開かれ繋がりの広がる拠点として更新されたのである。ここでは、新たに設けられた場所を中心に、そのデザインの背景と内容を紹介する。

２．KIITO:300

３階は、貸会議室やレンタルオフィスのあるフロアで、その中の片廊下に面した多目的スペースが改修対象であった。全体で約 900 ㎡である。この中に、「KIITO：キャンプ」＝子どもの創造的学びのプラットフォーム、「KIITO：ファーム」＝社会貢献活動のプラットフォームという 2 種類の場所をつくることが目的であった。さまざまな立場の方々が、社会活動や地域活動を軸につながる場所とするために、個別の場所を完全に独立させずに、全体を横断する空間的にもプラットフォームのような場所が必要ではないかと考えた。そこで、一部の壁を撤去し、約 50ｍの通路がキャンプとファームの中を横断する構成とした。エントランスから真っ直ぐ延びる通路沿いには、インフォメーションコーナー、ワークスペース、ミーティングコーナー、セミナールームなどが面しており、さまざまなコミュニティや活動に自然に触れられるようになっている。

全体は、ほぼワンルームであるが、多様な活動を支える装置や道具を散りばめることでで、特徴的な居場所を複数設えた。旧生糸検査所で使われていた家具を組み込んだり、地域と縁の深い材料を用いることで、この場所ならではの空間づくりを行った（図 1）。

図１　旧検査所の家具や地域産材を用いた什器

・キャンプ（図 2）：子どもを対象としたデザインやアートのワークショップやイベントを行う場所で、放課後利用や週末の親子連れでの利用が予定されている。前述した地域ならではの素材に加え、コンクリートブロックやベニヤといった加工の余地のある材料を用いた。使い方に合わせて利用者が手を加えていくことを想定している。六甲山材を保管・利用促進する地域団体シェアウッズから入手した

図 2 KIITO：キャンプのエントランス周辺

[*1] 教授　建築学科
Professor, Dept. of Architecture
[*2] 特別助教　建築学科
Assistant Professor, Dept. of Architecture
[*3] 特別助手　建築学科
Research Associate, Dept. of Architecture
[*4] 客員研究員　工学研究所
Guest ResearchFellow, Research Institute for Engineering
[*5] 客員教授　工学研究所
Guest Professor, Research Institute for Engineering
[*6] 特別研究員　工学研究所
ResearchFellow, Research Institute for Engineering

様々な樹種・形状の木材を適材適所配置した。伐採した街路樹を丸太ベンチにしたり、間伐材や地酒の酒樽を解体して出た木材で既存の列柱を囲い、空間のアクセントとした。その他にも、旧生糸検査場の時代の街灯や什器などを効果的に配置することで、コストを抑えながらも独自性のある場作りを目指した。

・ファーム：大学、企業、NPO などを対象としたプラットフォームで、社会貢献活動の支援や相談を行う窓口業務まで、広く市民の活動をサポートする場所である。大小のセミナールーム、ミーティングルームや活動展示スペースを用意して、キャンプと一体の空間のなかにありながら単独利用したり、研究目的で長期間専有利用もできる。セミナールームは、防音カーテンによる開閉で 2 室 1 室利用やオープンレクチャーなど、利用形態や規模によって広さをコントロールできる（図 3）。ミーティングルームの間仕切り壁は、活動のアクティブな状況が部屋の外からも見えるように透明ガラスで間仕切り、出入口扉には生糸検査所時代の建具を再利用した（図 4）。

図 3　セミナールーム

図 4　ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ

３．クリエイティブラウンジ

・エントランス、インフォメーション、ショップ

2 階三宮図書館への動線や施設 1 階の利用率改善のため、利用頻度の低かった南エントランスを施設全体のメインエントランスへと改変するという要望に対して、1 階共用部にエントランスとしての設え、施設全体のインフォメーションを兼ねたショップを配置した。エントランス空間には、廃棄された六甲山麓の御影石を保管・管理する「石の銀行」[2]から入手した御影石と植栽を配置してアプローチ空間としての演出を行った。将来的には自動ドアを設置して風除室とする計画にも配慮している。エントランスの先に設えたショップは、ニッチを利用して既存施設の平面形状に合わせて製作した展示什器に加えて、生糸試験所時代の什器や周辺公共施設から譲渡された什器を組み合わせて可変性のあるレイアウトとした。

図 5　エントランス

図 6　ショップ

・クリエイティブラウンジ

生糸検査所時代には出荷スペースとして利用されていた場所である。改修以前はレンタルスペースとして利用されていた細長い空間に対して、常時無料で利用できるラウンジスペースとして改修した。細長い空間を活かした 30m のロングテーブルは、コロナ禍でも快適に利用できるゆったりした自習スペースとして施設入居者や来館者の利用が可能である（図 7）。マーケットなどのイベント開催時には、テーブルを挟んで出店者と客がやりとりするなど、空間の特性を活かした利用も行われている（図 8）。改修以前同様のギャラリーとしての利用時にも、ロングテーブルが展示什器として活用されることを想定するなど、レンタルスペースとしての機能を拡張することも期待している。ロングテーブルの前に配置した椅子と机は、デザイン教育にふさわしいロングデザインの什器を選定した。三宮図書館の移転に伴い、以前より多目的な来館者が増えることへの対応として、ちょっとした待合い、ミーティングや飲食等で気軽に使える居心地のよい公共空間としてのフリースペースを計画した。窓際にカーテンで区切られた大小のミーティングスペースは、来客対応時のミーティングにも利用できるなど、既存入居者への機能拡張とともに、新規施設入居希望者への訴求効果も期待できる。

図 7 ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾗｳﾝｼﾞ（平常時）

図 8 ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾗｳﾝｼﾞ（ｲﾍﾞﾝﾄ利用時）

４．エントランス・キャノピー

エントランスが面した歩道上にキャノピーを新設した。来館者に対する施設メインエントランスを明示することや、対面に立つ歴史的建造物である神戸税関の庇と対をなし、港から三宮駅まで続くフラワーロードの玄関口としての景観要素とすることが目的である。敷地外の道路(歩道)上に設置するため、屋外広告物として申請を通している。関係する行政機関と長期間にわたる調整を重ね実現した。道路掘削時に撤去が容易なディテールとしている。

図 9　キャノピー

５．（仮）クリエイティブ屋台

KIITO300 キャンプに隣接する一室に、キャンプでの製作活動をサポートする什器を設計している。可動の屋台形式で、作業台としての役割から展示台まで使える土台をベースに、予め用意したカスタムパーツを必要に応じて利用者が手を加えられる仕様としている。

（出典・参考文献）

[1]KIITO HP About　https://kiito.jp/about/

[2]石の銀行　http://www.ishi-bank.net/

写真：図 1,3,4　©いとう写真